滿州日報

○報價目
每月收取八角代賣所及遞送人并無分毫加增
○告白刊例
一行五號二十一字起碼登一日者每行二角每登十日一行一角五分登月者每行每日一角登長年者價當面議
從減 每張四百文

Rates for Advertisement 20 cts. per line.
Payable in Advance. Postage Included.
The Manchuria Daily Report Office.
Newchwang.
Telephone No. 29.

告料 一ヶ月以上 錢十五仙乃至十錢 長期連揭減價面議
發行所 淸國營口中盛街 滿洲日報社 (電話二十九番)

元寶六吊九百至六吊八百
共上東三十餘輛
共來七十餘輛
五吊四百文至五吊

一ウヰスキー	一星	全十五圓
一仝	角瓶	全二十五圓
一ブランデー	三星	全二十八圓
一仝	鷲印	全十五圓
一札幌ビール	四打入	全九圓七十錢

一チエリー	全一圓六十錢
一リリー	全一圓五十錢
一ロングライフ	全一圓五十錢
一杉四分板 一坪	銀一圓五十五錢

材木類 喜久洋行調查

一仝一丈	全
一仝一間	全十五錢
縦四分板 無節天井板一坪	全二圓
一杉二間三寸押角一本	全八十一錢
一仝四寸仝	全一圓四十四錢

特別廣告

資本金貳千四百萬圓
積立金一千零拾四萬圓

本支店出張所
橫濱 神戸 東京 長崎 大阪
倫敦 里昂 紐育 桑港 布哇
孟買 香港 上海 天津 北京
大連 旅順 奉天 芝罘 鐵嶺

電話 十番 支配人室 百八番 事務室

橫濱正金銀行牛莊支店

清酒東自慢、白鹿
朝日ビール
孔雀印平野水、箱根水
上等石炭
以上極廉價を以て發賣致候間御用仰付被下度候也
松茂洋行商業部 河岸通(電話五十二番)

滿洲日報各地賣捌所
滿洲日報廣告取次所
大連市磯岐町三百三十八號 日華運輸公司
大連市磐城町四十九番地 岡野新聞舖
奉天大南門內畧䄉宮胡同 全泰號
遼陽 遼陽俱樂部 谷口今朝太郎

三井洋行 倉庫部
啓者本行開創在中外通商各埠已有年歷所售棉紗棉布火柴煤炭糖海參等各貨均皆物美價廉名馳遠近如蒙各商光顧請駕臨是荷者
●精製白砂糖新入荷物あり
今回倉庫所在地(青堆子精搗場上隣り河岸)の取扱所に電話を架設致し候間貨物の出入其他倉庫に關する一切の件は仝所へ御照會被下度願上候 (電話百二十八番)

宅合名會社分莊
本號前在營口東營元神廟街自造日本酒澤鶴印并一切雜貨其名譽已傳播於滿洲全地矣今又擴在西營子老爺閣街同盛德院內分設支店一所發賣綿絲布火柴絲布綢衣荷標布手巾花巾東洋撥子洋胰儀表貨物俱全而價値尤格外從廉且貴客賜顧時另派有一華人宋厚田氏細心接待以便商議一切凡中外士商賜顧者請廣臨爲幸
運輸部
運搬特得官准開設火車轉運行於東西兩店并牛家屯分此殊以李吉甫田彫超等之華人敏活細心以責任欲膺事與本業賜顧幸甚
總司理人田中瀬之助謹白 電話 東店五五 西店一三

東盛和
本號在營口創設二十餘年專辦出口餅油豆各等土貨進口棉紗布疋火柴洋麵糖煤雜貨發行並經理兌銀錢彙代客經理買賣租船裝運事宜營口廣東兩處自建輪船一隻泊貨棧房地方寛大凡泊物船裝卸貨物極爲利便國貯油餅豆米麥更爲合宜彙價有輪船一隻名城多利號載重二萬担如有欲租船運貨及存棧貨物水脚棧租格外從廉 貴客賜顧請到小號面議是荷 司理人 葉亮卿謹白

東永茂
機器油房在營口創辦油搾生意多年以本營業兼亦做油房事及經理買賣糧貨布疋等物并代客莊運汽船配載事宜三井行與本店素稱交厚並與各南北客經理有年誠信相孚遐邇知之 正理事 潘玉田 副理事 金鎭魁 設在營口西北街路南

西義順
本號開設營口西街老爺閣前路南營乙第五號專營裝卸輪船上下各貨照料糧棧堆棧寛大凡中外 士商賜顧者請認明招牌決不致悞 本主人敬啓

仁裕號
係裝運各物火輪船生意兼賣各幇洋什貨糧石等此佈 營口西大廟街路北營乙第十三號

恒有長
本號開設在西大廟街路南第十一號廣福雜貨一應俱全價値格外從廉克己并另設銀爐包營銷以應急需久爲中外士商所推許凡賜顧者請認明招牌爲荷

元茂號
油坊買賣元豆豆油豆餅雜色糧石以及代客購辦雜貨布疋一切發行裝運沙寧嶋船交易南北客商歷有年矣爲此謹白 開設營口西街老爺閣前路北營乙第四十九號

代代木烟公司
本行專售日本官造紙烟 最上等象牌(翻過)櫻花牌([illegible])百合花牌(利利)均已馳名內外 孜特選上等烟料加工精製 雙仙鶴牌(鑑沽來福)清香撲鼻佳美適口 價値極廉諸 嘗欲購可向敝行或請至本行公司代理店西營口大德元採買庶不致誤謹此廣告

關東總督府管內(租借地ヲ除ク)土地家屋貸下內規

第一條 本內規ニ於テ土地家屋ト稱スルハ關東總督府管內ニ在ル官有ノ土地家屋營造物其他一切ノ不動産ヲ云フ

第二條 土地家屋ハ官ニ必要ナラザルモノニ限リ一定ノ貸下料ヲ徵シテ一般人民ニ貸下クルヿヲ得但貸下料ハ毎月之レヲ前納セシムルモノトス

關東總督府經第一九六九號ノ塲合ニハ貸下料ヲ徵收セズ

第三條 土地家屋貸下期限ハ一ケ年以內トシ繼續貸下ヲ希望スル者アルトキハ更ニ出願許可ヲ受ケシムルモノトス但事業ノ性質ニ依リ特ニ認可ヲ得タルモノハ此限リニアラズ

第四條 土地家屋ノ貸下取扱ハ軍政官又ハ軍務官(軍政官又ハ軍務官ヲ置カザル地ニ在リテハ其地ノ軍政ヲ所理スル官衙以下之ニ做フ)之レニ任ス可シ

第五條 軍政官又ハ軍務官ハ貸下グベキ土地家屋ノ等級區分及ヒ貸下料ヲ定メ豫メ總督ノ認可ヲ受ク可シ但シ略圖ヲ添附ス可シ

第六條 同一ノ土地家屋ニ對シ同時ニ二人以上ノ借受出願者アルトキハ其貸下ハ競爭入札ニ依ル競爭入札ノ方法ハ軍政官又ハ軍務官之レヲ定ム可シ

前項ノ土地家屋ニ就キ第三條ニ依リ繼續貸下ヲ願出ツルモノアリテ入札者中ニ於ケル最高額ノ貸下料ヲ納付スルトキハ其出願者ニ先借權ヲ有セシムルモノトス

第七條 借入人借受目的以外ノ用途ニ土地家屋ヲ使用セントスルトキハ更ニ出願許可ヲ受ク可キモノトス

第八條 借受人借受ノ土地家屋ヲ他人ニ轉貸シ又ハ當該土地家屋ノ上ニ有スル權利ヲ債務ノ擔保ニ供シタルトキハ直チニ貸下ノ許可ヲ取消スモノトス

第九條 土地家屋ノ借受人第七條ノ規定ニ違反シ若クハ天災其他避ク可カラザル事由ニ依ルニ非スシテ借受ノ日ヨリ二ケ月以內ニ借受ノ目的タル施設ニ着手セス又ハ着手スルモ其目的ヲ遂行スル意志ナシト認メタルトキハ其貸下ヲ取消スモノトス

第十條 借受人借受タル土地家屋ニ修繕ヲ加ヘ又ハ其他ノ工事ヲ爲サントスルトキハ願書ニ工事豫算書ヲ添付シ其地ノ軍政官又ハ軍務官ニ出願セシムルモノトス

前項ノ場合ニ於テ軍政官又ハ軍務官ハ工事豫算書ノ正確ナルヤ否ヤヲ調査シ許否ヲ決スルモノトス

第十一條 借受人前條ノ規定ニ依ラスシテ修繕其他ノ工事ヲ爲シ若クハ故意又ハ怠慢ニ依リ土地家屋ヲ荒廢毀損亡失セシメタルトキハ相當ノ賠償ヲ命スルモノトス

第十二條 借受人自巳ノ便宜ニ依リ借受中ノ土地家屋ヲ返還シ又ハ返還ヲ命ゼラレタル場合ニ於テ其ノ土地家屋ニ加ヘタル工事又ハ定着物アルトキハ軍政官又ハ軍務官ハ相當ノ期限內ニ復舊工事ヲ爲サシメ又ハ其物件ヲ除去セシム可シ

前項ノ期限內ニ復舊工事ヲ終ラサルカ又ハ定着物ヲ除去セサルトキハ借受人ノ負擔ヲ以テ官自ラ復舊工事ヲ爲シ尚ホ損害アルトキハ之ヲ賠償セシメ定着物ハ之レヲ沒收ス

第十三條 前條ノ場合ニ於テ軍政官又ハ軍務官ハ必要ト認ムルトキハ第十條ノ工事豫算書及其他ノ狀況ヲ參酌シ相當ノ價格ヲ以テ工事及物件ヲ買收スルヿヲ得但シ此場合ニ於テハ關東總督府經理部長ノ承認ヲ受タルヲ要ス

第十四條 貸下クル土地家屋ニシテ官ニ必要ヲ生ジタルトキハ何時ニテモ其一部若クハ全部ヲ徵用シ又ハ返還ヲ命ス但シ止ムヲ得サル場合ノ外家屋ハ一週日土地ハ一月前ニ豫告ヲ爲スモノトス

第十五條 軍政官又ハ軍務官ハ停車場域內及其附近又ハ鐵道沿線上其ノ他將來ニ於テ軍事上行政上重要ト認ムル土地家屋ヲ貸下クルトキハ移築改築復舊工事等ニ多大ノ日時ト手數トヲ要スル永久的築造物ノ建設又ハ著大ナル變造ヲ施スコトヲ許可スベカラズ

第十六條 前條ノ規定ハ租借地內ニ在リテモ亦之レヲ適用ス

大日本政府特定
官製口付紙捲煙草
滿州一手輸入發賣
江副洋行
營口永世街

和泉洋行
本店開設在營口重盛街、發賣毛布、手巾、小布衫、鏡子、饅袋、帽子、洋蠟、小刀及其餘各種雜貨一槪俱全價値格外從廉克己、凡中外仕商賜顧者、請速臨爲幸、
大阪府堺市熊野町 藤原謹啓

田中牛莊分莊
啓者本舖開設於東營口綏定門外經大阪九三組精造東緊身洋式襪子羊肚手巾各樣新近進口來的貨寄於本舖代售格外從廉 賜顧者請光臨本舖面閱是幸
田中牛莊分莊謹啓

材木 荒物 販賣
秋田洋行
營口永世街第一八四號平野町
本店 下關 秋田寅之輔商店

飯塚工程局材料出售
啓者本局今特與日本北海道天鹽木料公司商訂以日本輪船運到各種木料品質精良久已馳名遐邇以之架造屋宅及製各色傢具無不合宜且價値格外從廉克己凡中外士商賜顧者請來本廠東營口元神廟街本工程局面議不悞再本十新到各種木料東洋炸子貨眞價實以應各主顧急之需 謹本主人啓

雜貨卸商
在營口元神廟街
關東公司雜貨部

雜貨 すし米
醬油 清酒 大樽 半樽
木炭
營口西北街
阪神組

營口元神廟前
飯塚工程局材料部
(電話百三十五番)
營關土木建築材料品の各產地と特約を結び廉價を以て多少に不拘賣却仕候
一北海道產松大角材外種々
一石灰、石材、敷石、碎石、煉瓦 等
一日本石炭數種

東京電報

●凱旋軍歡迎會 今日凱旋軍歡迎會を開く閑院宮殿下梨本宮殿下各大將及び西園寺首相以下各大臣參列近來の大盛會なり

（二月十六日發電）

倫敦電報

●香港公債の賣出 三分半利附香港公債一千一百萬磅は九十九磅を以て賣出されたり

●暴徒の銀行襲擊 拳銃を持てる暴徒の一隊は白晝センテピータースボルグの貯蓄銀行を襲擊し警吏と奮鬪の後ち多數の死傷者を生じて退散せり

●波蘭革命者の宣言 ポーランドの革命者は今後政治的同盟罷業を放棄し專ら爆裂彈に依頼すべき旨を宣言せり

●知事の告示 露國ヲデツサの知事は爆裂彈を所持する者及び其連累者は法廷の審判を經ずして直に處刑に附せらるべき旨を告示せり

●バルフオア氏の政見說明 バルフオア氏は選擧競爭の演說に於て氏の政見を仔細に說明し且つ附言して曰く余の政見は夙に國民の熟知する所にして輓近に於ける政界の出來事の爲めに毫も動かさるゝ所なしと

（以上二月十五日發電）

●統一黨の大會 昨日統一黨の大會ありデボンシヤイヤ侯カーゾン卿チエムバーレン氏セシル卿等を始めとして五百名の出席者ありたり大會の議長はバルフオア氏にして統一黨は擧つてバルフオア氏に對する信認投票を爲せり

●デボンシヤイヤ侯と關稅問題 チエムバーレン氏は熱心にバルフオア氏を贊助せしがデボンシヤイヤ侯は黨議として採用せらるべき關稅問題に同意すること能はざるの意を漏らせり同侯は近々統一黨中の自由貿易派の人々を召集して會議を開く筈なり

●二名氏の關稅意見一致 バルフオア氏は書をチエムバーレン氏に寄せて曰く關稅問題を決定して財政改善の實を擧ぐるは二黨第一の建設的事業たらざるべからず總ての既製品に對して適當なる關稅を課し外國の穀類に對して低率の課稅を爲すは主義に於て毫も異論なしとチエムバーレン氏は之れに回答して曰く余は全然閣下の政見に一致す喜んで閣下の政策を奉じ犬馬の勞を致すべしと

（以上二月十六日發電）

●雜報

●日清實業協會例會 同協會は本日午后二時より西營口公議會内に於て例會を開き或る重要問題に就て協議を凝す筈なりと云ふ

雜報

●露帝の威信失墜 露國皇帝は革命黨の威力に驚き人民に對して憲法制定の約定をなしたるため宮中派よりは憶病者と呼ばれ人民よりはザー遂に我等の威力に屈せりと目せられ太公連は現帝の在位はロマノフ家の滅亡を意味するものとなしウラジミル太公主として露帝に位を退くべしと迫つゝあるやに傳へらる

●獨紙の極東政略 フランクフーテル、ツアイツングは極東に於ける唯一の泰西勢力なりし露國が日本の打擊に敗北したる今日に於て人種的立塲よりは泰西の強國として東亞に雄飛するもののなきに至れり若し獨逸にして清國に政策の成功を期せんとせば飽くまで溫和なる手段を講じ先づ淸國の厚意を買ふに如くなしと論せり

●昨年度英國外國貿易 昨年に於ける英國の外國貿易は頗る好況にして其輸出額は未曾有の巨額に達したり即ち一昨年中の輸出總額は三十億七百餘萬圓の巨額にして内外人の共に嘆賞する所なりしが昨年は一層增進して一月より十一月に至る十一ケ月間にて三十億一千三百餘萬圓に上れり而して此著しき增加は諸製造品の輸出增加に基くものにして輸入原料品の增額僅に八千七百餘圓に過ぎずと云ふに至ては更に其好況なるに驚かずんばあらず尚は其輸出品の大部分は製造品にして輸入品の大部分は製造原料なりと

●世界人類の中心點 ライプチヒ大學講演會に於てラムタレヒト博士は日本の新興は歷史的の一現象として人の注意を惹くに足るべきも世界人類の中心點は飽まで英米獨三箇國たるべきものなりと言へり倘博士は英米獨間は時に多少の惡感ありとするも是れ親族間の一時的感情に外ならず此中心たる三箇國に對して起つべき者あらば三箇國間の惡感は直に消失すべき理ありと附言せり

●淸國の教育と外國人 淸國にて外人の經營せる學校はその數頗る多く最近の統計によれば校數八百二十四、生徒十五萬人、敎員外國人二百餘人、支那人千人を算するに至れり而して其多數は基督教各派教會に關係あるものなるが米國人の經營に成る厦門同文書院のみは同種の學校中稀に見るの盛況を呈し昨年中の生徒數三百十四名、其卒業生は各方面の需要に應じて成績甚だ良好、育英事業として健全なる發達を遂げつゝありといふ

●ち號債券賣出狀況 勸業銀行にては豫定の如く去る五日よりち號貯蓄債券を賣出したるが賣行至極良好にて各地代理店より日々七八百通位宛債券の遞送を請求し來る趣きなるが今回の發行額は百萬圓の豫定なりといふ

●燐寸軸木法案 今本案提出の理由といふを聞くに同業の漸次盛大に赴くに伴ひ軸木の原料たる白楊樹の需用年々多きを加へしを以て自然濫伐の弊を生じ其產地たる北海道中運搬の便利ある各地の白楊樹は所在漸やく其跡を絕ち現に鐵道沿路各地に於ては殆ど其影を認めざるに至れり左れば燐寸特許法の施行と共に該樹保護の必要を感じ之が取締法を設けて一方には濫伐の弊を防止し一方には殖林の道を講じて該樹の繁殖を圖り以て現在は勿論遠く將來の計を爲さゞるべからずとの意に出でしものなりといふ

招待し祖道の宴を張る由なるが出席者は日清兩國人五十餘名なりと云ふ

●種痘の施行 豫て其筋より內地へ注文中の痘苗一昨日到着したるを以て明後廿日より當分の間西北衙門務所に於て一般公衆に種痘を施行せ

●大連と營口の比較（承前） 世間或は說を爲す者あらん曰く、東淸鐵道の輸送力は將來或は非常に增加するに至らん、唯た知らず果して其輸送力を充たす可き積載物あり得るや否や想ふに甚だ疑問也。余輩請ふ之を調査せん撫順の炭坑は其の炭質に於て將た其の鑛脈に於て實に天下の珍なるか今ま此の炭坑に付て調査せし人の言に聞くに一日一万噸の石炭を採掘するは敢て困難に非ずと夫れ或は然らん然れとも一万噸は少數多量に過ぎるが如し其の半額即ち毎日の採掘高五千噸と觀れは復た實際に大差無かるへし蓋し少きに失するも多きに失するの恐れあらす今夫れ東淸鐵道に於て積載の貨物に不足を覺へんか政府は宜敷人夫を增加して無限の石炭を採掘して大連に輸送シ以て內外の需用に應すへき也、蓋し一擧實に兩得の良策に非る無き乎余輩の觀察に依れは東淸鐵道の輸送貨物は其他尙は甚だ少からす假に石炭以外には全く之れなしと爲すも石炭は實に無限也、政府は必す大に之を採掘して輸送すへし論者請ふ幸に安して可也、

將來、東淸鐵道か改良せられ而して更に廣軌とならは日々の輸送力の八千余噸に達するは前之を述へたる如し、今更に其の積載貨物に付て調査するも其有望なる亦た斯の如し誰か復た其の積載を難しとせんや請ふ臼尺竿頭一步を進め收支の金額に付て聊か計算を試みん東淸鐵道の積載貨物は石炭の以外に何物も之れ非すと觀察して以て計算せは其計算や蓋し最も確實也今ま即ち如斯にして之を計算せん

撫順と大連との距離を三百哩と假定し更に石炭一哩一噸の運賃を一錢とすれは五千噸に對する大連迄の日々の運賃は無慮實に一万五千圓也、此の一万五千圓は東淸鉄道か將來に於ける每日の收入の最少限なるが今ま此の最少限の收入たる一万五千圓中より前述せし所の東淸鉄道每日の生活費八千圓を扣除せは殘額尙ぼ七千圓に達す若し夫れ擴張の將來に於ては每日一万圓の支出を要すと見て收支を比較するも又た實に日々の利益に於て五千圓を算するに足る述へて玆に及へは何人と雖も復た其經營を按せさるへきか予輩か其の經營必すしも難からすと云ふの理由蓋し此所に在る也夫れ大連と東淸鐵道は全然別牲也東淸鉄道の繁昌の爲に大連を哀頽せしむるの必要非之ると共に大連の繁榮の爲に東淸鐵道を悲境に沈淪せしむるの必要も亦た非之す論者は槪ね大連と東淸鐵道を以て恰も車の兩輪の如く將た鳥の羽翼の如く全然相離る可らさる者と做す東淸鐵道を以て遼河のジヤンクを放逐し以て營口の繁榮を剝奪せんと企圖する如き蓋し此の所見に基く也豈に誤解も甚しからすや大連は大連を以て起ち東淸鐵道は東淸鐵道を以て起へし、斯の如く互に獨立し以て自然の發達を遂るは抑も大連眞正の繁榮には非る無き乎何んと復た區々の人工を交ゆるの要やあらん況んや到底勝算の見込無き競爭の如きに於てをや余輩は實に東淸鉄道と遼河の船舶との競爭を觀察して甚だ理由無き競爭と思考すると同時に東淸鉄道の發達の爲に頗る之を惜む者也卑見幸に識者の一考を得は單り余の幸福にあらす云々（完）

中の興倉司令官は昨夕歸營せりと

●軍票又々騰貴 一昨日より軍票は更に一錢を騰貴して一圓となり全然金票と其價格を等ふするに至れり

●愛國婦人會の協議會 來る二十日の慈善市に

●滿洲近事

▲奉天の陸軍學堂 奉天將軍趙爾巽氏蒞任以來鋭意政兵の更革に從事しつゝあるとは夙に世人の熟知する所なるが此頃八旗學堂を開設し以て士民か尙武の氣象を振作し併せて滿洲防備軍の改善を行はん爲め此程學部を經て其旨奏上に及へりといふ

▲北洋軍の胡匪討伐 直隷總督袁世凱氏の命に依り錦州一帶の胡匪討伐に向へる北洋軍隊は去る十一日保定府を出發せるか總勢兵士七百餘馬匹五百九十頭にして北洋第三鎮標馬隊は統標張國泰氏之を引率し第二營馬隊一營は陳文運氏之を引率し第三營馬隊一隊は文致堂氏之を引率せり而して此外步隊三營砲隊一營も亦近日中續發すへしと稱す

▲黑龍江省の郵便局 此次黑龍江將軍の淸廷に電禀せる所に據れは同省は刻下其庶務整頓に從事しつゝあれば從ひて公文の往復最も頻繁なるも通信上非常の時日を要し動もすれば公事を誤るの虞あるを以て此際郵便局を設立し以て事務の進捗を敏活にせんとし已に政府に請ふに其規則等一切を郵政總局に商議せんとを以てせる爲め淸廷は目下總稅務司ロバートハート氏に交涉中なりといふ

▲新民府の工藝廠設置 新民府沈金鑑氏は今回同府に於て一工藝廠を設置し各種の工業を奬勵發達せしめんとの計畫あり其敎師として天津工業學堂より適任者を招聘することと爲り目下其交涉中なりと聞く

●滿洲守備と奉天新軍 北洋軍隊の一部が錦州附近胡匪討伐の爲保定府を出發せるとは別項記載せる所の如くなるが別報に依れば右は今回滿洲の守備に充つべき奉天新軍にして胡匪の蜂起は左迄の事に非されは右北洋軍の一部は直に奉天に向ふとと爲るへく袁雲臺氏多分其新軍統制に任せるへしといふ記して疑を存す因に北洋軍は其後引續き軍隊を輸送し去る十三日にも第三鎭第三標步兵隊及び砲兵隊六百五十二名砲十八門馬三百七十八頭保定を出發し奉天に向へりといふ

●東北慘狀と世人の同情 東北三縣の慘狀は昨紙報ずる所を以て其槪況を知るに足るべく以て如何に悲慘なる凶作なるかを想像するに足らん三縣百万の窮民に對する同情は今や天下を擧げて其救恤に奔走することゝなり之を外にしては英國人の五万圓を寄贈するあり米國大統領の同情的論告となり之を內にしては三縣免租案の提出さるゝあり救恤金百万圓支出の議を唱ふるあり中央に於ける新聞社通信社の聯合して救恤金を募集するあり地方新聞社の義捐金を募集するありて其同情の熾んなる洵に感泣するに堪へたり就中愛國婦人會本部に於ては女性の團体丈け同情憐愍の心一層深く各貴婦人達の發起にて救恤袋なるものを調製し或は米或は麥或は書籍或は金錢を封入して凶作地に寄贈することゝ爲したるが寄贈申込は數日ならずして千數百に上れりと云ふ溫き女性の同情は東北三縣の積雪をも融かすなるべし

ブリハウスに本員たる各婦人の會合を催し昨夜の相談を報告して種々打合せを爲す筈なりと云ふ

●轉居屆怠慢者のお炎 山口縣平民現時綏定門街遠來洋行雇人佐賀彌三郞（卅）は其筋より再三

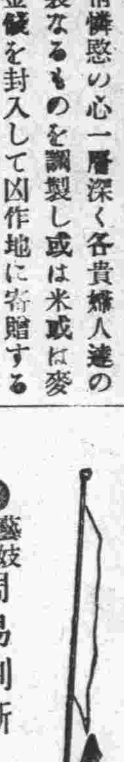
●金州鐵嶺公衆電報開始 本月十五日より金州鐵嶺の兩軍用通信所に於て普通語の和文公衆電報取扱を開始せられたり電報料は他の通信所發著のものと同一にして配達事務の取扱は兩所とも爲さゞるなりと云ふ

●仙波少將の來營 昨日午後一時着營し騎馬にて市內を東西に視察し更に騎馬にて牛家屯に向ひ同地兵站司令部に入り其の宿舍に投せり本日は先づ牛家屯併に其の附近を視察し更に來營して與倉司令官と會合せらるゝ筈、而して多分明日は大石橋に歸營せらるゝならんと云ふ記者會々道に少將の視察に會ふ即ち猝然として請ふて曰く必づしも本日に限らざるも願くは閣下の滿洲に關する所感を拜聽し以て江湖に紹介するを得ん事をと少將莞爾として對へて曰く可憐の旅團長將た復た何事をか語らんと反つて記者が懷中に挿む所の書冊に注目して曰く果して何本なるかと記者即ち答ふるに滿洲要覽なるを以てするや再ひ曰く抑も此の書籍は遼東兵站監部の編纂に係る者なるか其名の如く滿洲要覽也未た以て充分に滿洲の政治經濟を社會に紹介するに足らす望むらくは諸君の研究に依り追加補充而して遂に完全の者たらしめん事を是れ太郞か帝國の爲に將た滿洲の爲に敢て君等に希ふ所也云々記者は聯隊長時代の將軍を識るも其後の將軍を知らさりき猝然昨日視察の途に會ひ初て旅團長たるの將軍を觀る而して應對を愈々巧妙なるを知れり願くは將軍の國家の爲に益々健全ならん事を

●本年營口の寒氣 本年の寒氣か意外に弱きは一般の觀る所なるか某氏は記者に語りて曰く例年遼河の氷は三尺七八寸乃至、四尺に達するに本年は今日迄の調べにては其最も厚かりし日に於て僅に一尺六寸餘なりき卽ち平年の半分にも達せす其凌き易きも道理ならすや更に本年の如く降雪の頻々たるは從來の營口には餘り多く觀さる所なるか聞くか如くは本年は始終南風甚た多しといふ蓋し南風は雨量頗る多し卽ち中天に在る寒氣の酷烈なる雲霧と遭遇し氷結して雪となる者ならんか本年の甚だ暖なるも將た雪の多きも全く之か爲なるへし云々或は然らん

●過爐銀の決算 遼陽の經濟市場は近頃錢票の取附に會し恐慌の狀態に沈淪せる模樣なるか營口に於ても過爐銀の決算延引に引延を重ねて今日に及ひ而して今日に於て尙は決算するに至らす經濟界に一條の暗流橫り何となく穩かならざる形勢あり官民共に大に案しつゝありしか近頃聞く所に依れは不日良好の結果を以て決算を終了するに至るへしとか

●本願寺の日曜說敎 當地永世街矢野洋行向側なる本願寺出張所に於ては定例に依り本日午後一時と七時（營口時間）の兩回に於て日曜說敎を開き（知識と他力信仰）との演題にて寺本布敎師より說敎ある由なり



●藝妓仲居周易判斷 朴拙老

都樓　米八（本名瀧川とく三十才）
同　若蝶（同　安雄十八才）

（ツヾキ）

扨てお前さん姉妹はお氣の毒ながら養女に貰はれた悲さ幼なき時から隨分氣兼や苦勞をさつしやつたのであらうがな、ところで少し東やら西の判つた頃から兩親の膝を離れて旅をあちら、こちらと股にかけて廻らつしやつて花で言へば未だ蕾の內から淺間しい娼賣までもさつしやつた事が御座るやうぢやが早く身を固めぬと取りかへしがならぬ身となるぞへ、見れば兩人とも未だ年も若し容貌も可なり見られる、早く泥足さへ洗へば僅に一つイヤ萬に一つ玉の輿に乘れるかもしれんぞえ、あたら花を投げ棄てるとは實におしい事ぢや〱

兩人とも六七年跡迄は下の關豐前田とかで二枚鑑札で働いて御座つた　あらうのう、どぢやや其後何處も同じ秋の夕暮で思ふに任せぬ身の上から流れ〱て一足飛びに暑い臺灣へ渡らしやつて一時は相當に賣れて大分亡者連中を泣かしたであらう、ところが、あちらも日露戰爭の聲を聞いて以來頓と不景氣一方で弗々支那へ宿替する人が多いのでお前さん達兩人もツイ其風に誘はれて昨年十一月頃今の親方に抱へられて當地へ來たであらう

こちらへ來てからは日も淺いが近頃チヨイ〱妙な噂が朋輩衆の口に噂さるゝやうぢやぞえ、それ〱一月のお目出度早々から何やらスツタ、モンダの喧嘩が出來て四五日他出して御座つた事があらう、それから兩人共大分此頃は切賣方が繁しい評判ぢや……根が白首上りぢやからなぞゝ蔭口して居る人もあるやうぢや愼まつしやれ〱、若蝶さんの方は同じ姉妹でも姉さんとは氣質が違ふやうぢや善い事は習ふても惡い事は例へ姉の權幕を奪ふても見習うてはなりませんぞ。

米八さんの星は六白金星である面柔和にして一寸スマス風があるけれども其底心の甚だ强く且つ疑心即ち人を疑ふ心が甚だ深い爲に心の動きより色情を起す爲めに愼まざれは遂には色情の爲めに身を亡すやうな事があるぢや、それに性悧口にして萬事に氣を配り物事に細かく氣付く處があるやうにも見えるやうぢが、どうも吝嗇に陷り易いやうぢやから常にのみ事絕えず其爲めに心勞が多いやうぢや病は腰から以下水氣を貯ふが故に腰冷へ子宮病シヨウカチ等に罹かる事がある亦水難あり相性は

◎大吉　一白の人
◎中吉　九紫の人
●大凶　二黑　五黃　八白の人

若蝶さんのも見て進ぜたいが今日は少しいそがしいから此次にユツクリ見て上げるほどに今日はこれ　許して下さい、ヘイ〱さやうなら、ドリヤ一吹しようかな

天氣豫報

營口地方　自昨日午後六時至本日午後六時

北の風晴れ

日報倶樂部

新聞紙の職責たる極めて多や、一以て之を律すべからざるは勿論なるも、其社會の教育者たり新智識の供給者たる外、讀者の好侶伴として日常娯樂の機關たること、亦以て輕視すべからざる一本分中に數ふべし。我紙創刊以來、幸に江湖の愛眷に頼り今日の盛運を見るに至たるも、而も紙面徒らに堅くの誹を免れず趣味や或は索然、猶滿洲の曠野茫漠として山容水色の絶えて人目を悦ばしむるに足らざると相似たり。因て同人等胥謀り、來週日曜日以後、毎週一回若しくば二回、本紙上を割きて讀者の娯樂場と爲し、聊か紙面改善の一端緒たらしめんとす。同人等其枯燥せる腦漿を絞りて更に拮据黽勉すべきを期すと雖も、讀者亦錦囊を傾ちて其光彩を添ゆるに吝ならざらんことを。

二月十八日　編輯同人白

●戰時の御製

今上陛下が敷島の道に御堪能に在しますは今更申し奉つるまでも無き事なれど特に一昨年開戰以來の御製と申すは旦暮我忠勇なる海陸軍人の上に注がせ給ふ篤き御心を三十一文字に寄せ給ひしもの多く偶〻其數種の洩れて新聞雜誌等に掲載せられしもの軍隊の間に傳はるや何れも聖慮の辱けなさに感泣せざりしはなく滿洲軍の或部隊にありては士卒を整列せしめて時々是等御製の捧讀を行ひたる向もありたるが万卒肅然として水を打ちたるが如く折々には歔欷の聲さへ聞えしとぞ茲に記すべき物語あり陸軍教授丸山正彦氏が去秋戰蹟視察の爲めに大連旅順を經て鐵嶺の邊まで赴きたるが其途中にて或時一人の乘馬兵が馬の道草喰ふて動かざるを叱るとて「這奴、兵の心を知らねか」と罵りぬるを耳にしたりとは兵士に似氣なき口吻よと其隊長に面會せし節其由を物語りしに隊長某は忽ち襟を正して其は御製に

兵の心とともに乘る駒も
つかるを知らでいや進むらん

とありしを隊中の者共日ごろ感誦して罷り在れば扨こそ偶然斯くは申せしならめと答へしとぞ又或時後方勤務に從事せる兵士が戰線に在る者を羨めるを某友が戒むるとて「國を思ふに二道あるか」と云ふを聞きたれば試みに「二道とは何ぞ」と問ひしに其は御製に

國を思ふ道に二つはなかりけり
いくさの庭に立つも立たぬも

とあるより其聖意を畏みて假初の事にも斯くは云ひて互ひに奬み勵まし居る旨答へたり猶各所に就て問合せしに各隊兵士にして是等の御製を諳じ日常これを口にする者いと多きを發見せり文筆の道に從事して詞藻に親しむ者ならば知らず身已に戰地にあり且つ文字の素養も比較的に多からざる兵士の口より斯る事共を聞くにつけて同氏は上天の如くに我軍の連勝の偶然ならざるを感じたりとなん斯る難有き御製が士氣を鼓舞するに効ありしは實に百篇の論文にも勝りぬと申すべくこそ

寄堀越大尉在營口

六十九翁　赤松　殿

異域重逢故國春　春光應與外交新
盛京牢占海山利　咸鏡全消胡虜塵
幾處豐碑弔枯骨　多年兇賊虐生民
齊暐於我屬爾齒　正要政刑寬猛均

雪の日

新坊

隣家も淨、道行く人も稀、未た早いと思ふ今朝、見れば日本時間の十時、跳起きて窓掛をまくれば、硝子の外降るは〳〵、雪は渦を捲て卍巴

降る今日は橇唯一ツ雪の河
狗もまた門にたゝずむ吹雪哉
吹付て窓に其儘雪こほる
吹雪して油煙に黒き雀飛ふ
いざ飲まん友訪ひ來る雪の朝

雪十句

考槃野史

折竹の聲さかまほし雪の夜
雪に飛ふ犬ころゆかし牛家屯
雪紛〻昔しを夢や田庄臺
遠く見ゆる雪は古城や山海關
枯木寒鴉雪の日暮は豐なり
なかめなき滿洲も亦雪の朝
雪の日に訪ふへき程の人もなし
つねにいむ狗も雪の日ころ〳〵と
滿洲に最明寺ありやいな雪の暮

春七句

野梅

鶯や下手と上手のよう知れる
とりつかぬ手足てうかふ蛙かな
山低う見せて日暮るゝ霞哉
春の雨默つて降て居たりけり
春風や馬を降れはゆるむ帶
朧とは月出てよりの名なるへし
美しう死て見せたる佛かな

●滑稽問題

一月元旦の紙上滑稽息愣棲の試驗問題を掲載せし所花葉田喜樂なる人答案を寄せられたるが今又それに類似せる問題を左に提出す同好の士答案あれ（水骨坊）

▲父をちやんと呼び母をおツかあと云ふは如何なる故ぞ

▲亭主の事を宿六と云ふは如何なる理由なるか

▲日は月より大きい物と承知して居ますが文字に書くと楷書でも草書でも月の方が日より大きいのは道理に叶ひませんが是は如何

□□□

●鹿爪錄

△△坊はでたらめ草を書いて何んだかひねくつた事を言つて居る自分は一つ鹿爪らしいとを書いて向ふを張つて見よう間違つた所は偏へに讀者の是正を仰ぐのである▲近頃新聞否普通の人が最も普通に使用する字で區別のつかぬ字が澤山ある即ち書畫、選撰、刊刋、廢癈辨辯等の字である▲自分が聞く所では書は繪畫の書で畫は計畫などいふ時に用ゐる選は選擧選擇の場合に用ゐ撰は文章などを作るといふ場合即ち何々山人撰などいふ時に使ふ▲刊は普通新聞など發刊のカンで刋は音がセンである廢は廢止の廢、癈は癈疾癈兵などいひて不具を意味する辯は辯舌の辯で饒舌る時に用ゐ辨は辨明などいふ時に用ゐるさういふ類いは列擧すればまだ幾くらもある（口口生投）

玉島少女

其六　舂山

若い時は、煩悶と申しても、悲哀と申しても、それは皆な各〻の空想から割り出したもので、いざとなれば、どのやうに思ひ切ることも出來ましたした、どのやうに慰める方便もありましたが、夫も出來、子も出來、苦痛、悲哀、皆實際の人の世に露骨に觸れるやうになりましては、泣くも笑ふも叫ぶも、もう一つとして自から嘗めて自から味はなければなりません。實際の苦痛と申すものは、丁度じめ〳〵と砂の上に降りなづむ雨のやうなものでして。青春の頃に想像したものゝやうに、決して華やかなものでは御座いません。

琴は高閣につかね、詩集は書棚に蔵めたまゝで、彈きもし讀みもしましても見たなら、さぞ慰藉にならうとは存じながら、何ふも手に取る暇も氣もなくなりましたので、二三年以前のことを考へると、涙をこぼさずには居られぬので御座います。

とは申せ夫の平生の行爲が甚だしく變つたのでは御座いません、無論、詩歌の巻に身を忘れるといふやうなことはなく、一夜とて家を明けて宿泊りを爲たことはありませんのです。いゝえ、私に對する素振り、長女に對する愛情なども、熱を失ふたやうな處こそ御座いますれ、決して冷やかな點は御座いませず、萬事に就けて、親切に獻身的に、世話を見て呉れるのでした。唯々をり〳〵堪へ難いやうに長太息を吐きますので、それがいかにも私の氣に懸りますから、ある日、それとなく訊ねますと、

「いやーさうかナ、そんなに長太息を吐くかナ。」

と無頓着に答へました。

けれど、其顔がいかにも青く、物思はし相な面影が歴々と見えますので。

「何ふも、貴郎、此頃長太息ばかりお吐きなさる、……それに、顔色もお惡いやうですが、何か、御心配になることでも、御有んなさるんではありませんか。」

「いや、何に、そんなことはありやせん。」

夫は、唯それ切り、言ふ跡からもう深い、その長太息を吐くのです。其長太息、その顔色、其處には、何か秘密が……。

けれど私共の生活は別に變る處が無くて過ぎました。其長太息のみは心に懸りますけれど、一度夫に此身を任した上は、何もそのやうに疑を挿むまでのことは無いと存じて、松に纏る蔦のやうに、唯々夫にのみ身を寄せて居りました。其間、種々の噂が私の耳に入りましたが、私は一つも取上げやうとは致しませんでした。

其の噂の中で、あれは確か九月頃のことでした。

夫が新橋の停車場で、ある若い婦人と連れ立つて、プラットホームから出て來たのを見たと告げて呉れた人がありました。其婦人は、鼠色勝な瀧縞銘仙に、葡萄色の山吹繻の帶をした若い女で、容貌も却々美しかつたとの事で、「奥さん、しつかりしなければ可けませんぜ……」と言つて其人は笑ひました。藝者風の女でしたかと訊きますと、いゝえ、そんな風な處は少しも見えぬとの事でした。けれどこの噂を爲た人は、至極饒舌の、よくありもせぬ他人の内幕を言ふので有名な方でしたから、私は話半分に聞いて、左程氣にも留めませんでしたが。それでも其翌日夫の學校に出勤した後で、何かそんな噂の材料になるやうな手簡でもありはせぬかと、机の抽斗から書棚の奥、洋書の頁の間まで探しましたけれど、そんなものは一つもありません。

夫には今年十七歳になる美しい姪がありますから、乾度それを伴れて歩いたのを間違へたのであらふと思ひました。

投書かご

▲昨日永世街を通つたら雪除苦力が二人して日本人は迂濶な事をする今雪を除けたつて又降れば同じいぢや無いかと言つてセツセ帚木で掃ひて居たこれが我輩の支那人觀である（通り生）▲飛鳥盡きて走狗烹らるゝ愛國婦人會基礎成つて藝娼妓禁制の札を建てらる我輩はレコの爲めに一滴の涙無きを得ないのである（同情生）▲祇園閣に改良をして貰ひたいものは京都流のシミツ垂れな朱塗の丸盆である日本館に改良して貰ひたいものは日本館と燒き込んだ杯である（江戸兒粹客）▲おたかは紀元節の晩澄ました顔で頻りと誰れかに色目を使つて居たぞ（瞥見子）

廣告

東北凶作地窮民義捐者芳名

營口軍政署

一金五拾圓　無名氏
一同拾圓　堀越順三郎
一同拾圓　中村種
一同拾圓　鈴木久之進
一同拾圓　讃村善吉
一同五圓　岡原小一郎
一同五圓　岩切明知
一同二圓　小宮山慶作
一同一圓五十錢　高田申作
一同拾圓　長崎梅子
一同拾圓　同文子
一同拾圓　増田又七
一同拾圓　岡部次郎
一同拾圓　藤野貞順
一同七圓　牛島吉郎
一同七圓　正田熊太郎
一同五圓　岡澤安次郎
一同五圓　岡部和二郎
一同五圓　小玉卯太吉
一同五圓　小田原寅亮
一同五圓　上田大二
一同五圓　三宅駿二
一同[illegible]圓　堀佐藏

一同參圓　大森弘資
一同參圓　岩下貞太郎
一同三圓　岸宇之吉
一同三圓　稻生保助
一同二圓　同情生
一同五十錢　早瀬武四郎
一仝拾五圓　同情樹
仝　營口醫院
一同五圓　横山春定
一同二圓五十錢　日野郎
一同二圓　新宮龜太樹
一同一圓五十錢　山崎茂郎
一同一圓八三十錢　鍋島秋二
一同一圓　永田りう
一同一圓　眞鍋つる
一同一圓　熊井さわ
一同二圓　池田さだ
仝　醫務所
一同二圓　土井元彌
一同一圓　栗崎又雄
一同一圓　伊藤平次
一同五十錢　羽田佐平治
一同五十錢　川崎龜藏
一同拾圓　楠田七之助
一同五圓　森井宗平
一同一圓　佐藤喜久平
仝　避病院
一同五圓　中崎俊秀
一同二圓　武田太吉
一同二圓　日高俊男
一同五十錢　小泉源三郎
一同五十錢　田村勸太郎
一同五十錢　野崎峰吉
一同五十錢　山村彌助
一同五十錢　上村榮治
一同五十錢　下田菊之助
一同五十錢　木村熊夫
一同五十錢　來島右衛門
一同五十錢　古川善吉
仝　療病院
一同五圓　市川圓一
一同二圓　川口要五郎
一同二圓　坂本峯吉
一同一圓　橋本篤三郎
一同一圓　北村卯八
一同五十錢　笠原辨一
一同五十錢　小西信太郎
一同五十錢　龜田齊五郎
一同五十錢　加藤厚
一同一圓二十錢　渡部繁太郎
一同拾圓　森岡大次郎
仝　屠畜場
一同七圓　秀島雄次郎
一同五圓　池田辰吉
同　司法部
一同三圓　碇山[illegible]彦
一同一圓　林山傳吉
一同一圓　金田[illegible]郎
同　電話局
一同三圓　細井[illegible]
同　警務課
一同二圓五十錢　土井綾三
一同二圓　平屋熊吉
一同二圓　小島辰三郎
一同二圓　宮林清之助
一同二圓　阿崎儀三郎
一同二圓五十錢　森部武夫
一同二圓　笑山兼造
一同二圓五十錢　池端鐵十郎
一同二圓五十錢　中山小之助
一同二圓五十錢　粂川長平
一同一圓　清田彌市
一同一圓　飯水四郎
一同一圓　荒野安二一
一同一圓　鎌木藤力
一同一圓　弘田[illegible]郎
一同一圓　井中[illegible]一
一同一圓　鈴元勇郎
一同一圓　上木成弘
一同一圓　池田新次馬
一同一圓　有田[illegible]已
一同一圓　安馬安郎
一同一圓　橋守正太一
一同一圓　崎本利次右衛門
一同一圓　河野頑郎
一同一圓　菊野万一藏
一同一圓　同池直郎
一同一圓　池本天吉
一同一圓　生田庄安郎
一同一圓　伊島金太養
一同一圓　高藤泰郎
一同一圓　佐橋直吉
一同一圓　武藤敬一
一同一圓　佐村兼治
一同一圓　植野卯太助
一同一圓　川田紋郎
一同五十錢　八戸寅作
一同五十錢　好井品市
一同一圓　好村品輔

一同一圓　沖川佐市
一同五十錢　富山安三郎
一同五十錢　增田歛次郎
一同五十錢　中川繁太郎
一同五十錢　秋本清太郎
一同五十錢　小林國次郎
一同一圓　森保市
一同五十錢　岡本佐彥
一同二十錢　塚本盤一
一同二十錢　小野要一

計三百七十八圓九十錢
通計一千五百九十九圓五十五錢

告示

一本年一月分土地貸下料未納者にして本月盡日迄に皆納付せさるものは其土地の貸下を停示す

明治三十九年二月十二日

營口兵站司令官　與倉喜平

廣告

來る廿日アツセンブリホールに於て愛國婦人會牛莊委員部慈善賣店幷に慈善演藝會を開く

一慈善賣店には特に日本より取寄せたる優等嶄新の美術品及婦人向粧飾品並に陶器漆器類あり

一演藝會には當委員部會員及び豫て本會事業を補助せらるゝ有志家の演藝數番あり

一慈善賣店は午後二時より演藝會は午后六時より何れも開始す

一通券は銀參圓にして領事館内愛國婦人會牛莊委員部及牛莊日本人會に於て發賣す

一入場人員に制限あるを以て通券は賣り切れさるに先ち便宜購入せられたし

右廣告す

愛國婦人會牛莊委員部

右今般新着
至成可間候仕
候上願込申御急

消火器

英 洋 治 行
營口北街

御料理 旅館
勉強館
奉天小西關外北長發圖隣

婦科專治 靈藥

奏功如神仙

名聲掩四海

子宮病血の道藥 中將湯 THE CHUJOTO TSUMURA

中將湯

大日本東京津村天堂 大藥房處修

此藥專治婦科諸症如經血、子宮虛冷、白帶赤帶、胎前產後諸症、惡阻、呑酸、吐水、諸症、難產、流產、或漏洩不安諸症、經水不調、經閉不順、或在經前經後病痛諸症、經道逆、衰發起、火氣、手足腹痛、頭暈目眩諸症復治、男女感冒風寒及症癥等症、誠救苦之妙藥濟世之至寶也

子宮病、血の道等婦人病一切の妙藥なり

總批發處大淸國營口永世街(二本町)

藥司洋行 藥劑士 淺野大藥房

其他各國有名藥發售 處醫藥及醫療器械

矢野洋行 Yano & Co.

電話一三七 Telephone No. 137

諸雜貨、家道具類、呉服反物、蒲團類、婦人用小間物、下駄、足袋、食料品、其他種々

今回新荷着致候間直段ゟ極安價を以て御用に可應候に付何卒多少に不拘御用命の程偏に奉願上候

謹言

石材、碎石 並に 自家製造 廉價販賣 瓦、煉瓦

營口元神廟街四十號第二號

順吉洋行

營口出張店は結氷中引揚ゲ候ニ付御用向ノ御方ハ遼陽出張店ヘ御來店アリタシ

遼陽停車場前 池上出張店

奉天 池上出張店

滿洲大販賣所

風藥

止咳 祛痰散

哮喘氣急、多痰喘血、咳嗽痰積、各種喉症、胃痛胸痛、甚至塵臥不安、飲食不進、或諸醫束手百藥罔效服用此散不論初起遠年立刻見效眞水火既濟之良方也

◎たんせき一切 ◎肺病の特藥 ◎ひきかぜ

賣藥寫眞藥 醫藥醫料器械

營口永世街(西順泰東首)

大販賣東瀛大藥房

奉天日本旅館 瀋陽館

家屋宏壯淸潔 接待優渥懇切

開放全時ニ開業 奉天小西門外大街路北

森病院

一診察 自午前八時至正午十二時 自午後三時至午後五時

一往診 午後三時より

△患者の入院治療を諾す

△貧困患者の施療は正午十二時より一時迄 [illegible]の入院を諾す(取扱主任[illegible])

院主 森 [illegible]

醫長 鈴木昌平 營口永世街(電話一五五番)

東營口郵便局東隣 島田洋服店

新民屯停車場前 同支店

會席料理 三日月 營口新市街南に入る

SPECIAL LIGHT (PILESNER BEER)

スペシャルライト賣出し

スペシャルライトはピルスナビールにして此種のビールは日本に於ては弊社始めて之を釀造せり

スペシャルライトは高價を拂ひて元料を特選せり

スペシャルライトは其味輕くして高尚なり

釀造元 大阪朝日麥酒株式會社

營口發賣 關東公司雜貨部

發賣 標子 木板 料木

營口青堆子

淸水寧木局

一關內外盧漢鉄道貨物運輸 但シ營口新民屯間ノ鐵道輸送ハ特ニ充分ナル御便利ヲ圖リ可申候

一海關手續 但營業所及郵船會社代理店事務所內派出員ニテ事務取扱

一鈔關手續 但西營口鈔關裏手東玉昌方ニテ事務取扱

一船舶荷物取扱

一其他水陸貨物運輸ニ關スル諸業

右營業仕候間陸續御用仰付被下度願上候

營口西北街第二七二號

大淸通運公司 營口支店

M. Iizuka,

Contractor,

Architict and Civil Eginneer.

Plans and specifications made to order.

Estimates submitted.

MODERATE RATES.

No. 151 Yuwansinmiao

Ying Kow

萬事勉强乘車乘船好位置

營口中央市場前

旅館 東京樓

店主 熊田兼次郎(電話百七十八番)

卽席和洋料理 東京樓支店(電話四十四番)

西洋料理仕出し御需應にず

藝妓仲居 新來御披露

此度新たに內地より藝妓仲居十數名を連れ參り候間御光來の上御評判の程願上候 草々

營口 高砂ホテル 高砂(電話一四五)

解雇廣告

會書記 馬島晋三郎

右解雇す爾來本會に關係なし此段廣告す

遼陽日本人會

京北 扶桑旅館

東單牌樓大街路西

客室淸潔 料理鮮新

大日本帝國醫科大學模範釀業司特用圖

攝津灘石崎合資會社釀造

醇良淸酒 澤之鶴

滿洲特約大販賣

裕和盛販賣品目

○酒保用品雜貨

○日本酒澤之鶴樽詰瓶詰

○洋酒食料品各種

○和洋煙草各種

○菓子類各種

淸國營口西北街 裕和盛號支店

電話八十一番

和盛本支店所在地

○本日本長崎梅香崎

○支店淸國、芝罘、旅順、鐵嶺、

○支店韓國京城、仁川、木浦、

澤之鶴は 既評に定ある天美錄

裕和盛は 淸商中日本通の張本

景品御料理御披露

私儀夫月中原料並に道具仕込みの爲め歸朝致し居ましたが此程種々の珍品を仕込みて立歸りましたを幸ひ平常の御引立に酬ひ度と思ひますので此際更に大勉强をしまして從來の御料理を吟味します外新に左記の價額にて釜飯湯豆腐の二品を加へ籤引景品を差上ます

新御料理

加藥飯 御壹人前 金五拾錢

親子飯 仝 上

湯豆腐 一鍋壹 金貳拾五錢

但釜飯は加藥親子何れでも御二人前以下は御調進出來ませぬ

景品は御勘定(金貳圓)に對し一枚の割にて景品券にて差上げ置き今回の總券數二千枚を出し盡しました時に有志の御方々の御立會ひを乞ひまして籤引致し景品券を引換へに差記の景品を進せます何卒陸續御入來之程を偏に希ひます

景品目錄

第壹等		銘酒澤鶴		七樽
第貳等		仝		三樽
第參等		五匁附純金指環		壹個
第四等	二本	銀側懷中時計	(代價二拾圓)	壹個宛
第五等	三本	旅行用皮製カバン	(仝拾五圓)	壹個宛
第六等	四本	旅行用化粧道具	(仝拾圓)	壹個宛
第七等	五本	膝掛け	(仝八圓)	壹枚宛
第八等	六本	絹紬	(仝六圓)	壹反宛
第九等	七本	メリヤスシャツ	(仝五圓)上下	壹組宛
第十等	八本	卷烟草入	(仝貳圓)	壹個宛

明治三十九年二月十日より

元神廟街 翁亭 長谷川金次郎

需め近々一時歸朝の途に就かる、害なれば日清實業協會は本り午后六時第三樓に於て長官を

●奥倉司令官の歸營　去日要件を帯び遼陽出張

宮門抄

二十一日 商部 鑾儀衛 廂黃旗值日無引 見 英俊璞玉世榕謝賞委散秩大臣 恩 文泰假滿請 安 大穎駙溥侗祥普各續假五日 車王續假十五日

召見軍機 英俊 璞玉 世榕

商部遞封奏一件

上諭恭錄

二十一日奉

上諭湖南永州鎮總兵員缺着張慶雲調補四川重慶鎮總兵着張士翰補授欽此

奏議

奴才程德全跪 奏爲已放郭爾羅斯後旗杜爾伯特旗兩製並巴拜等段荒地均應添設廳縣正佐各官以資治理恭摺仰祈

聖鑒事竊查郭爾羅斯後旗已放完竣荒段業經奏報在案而杜爾伯特蒙旗及通肯河西之巴拜荒段現亦將次事該兩蒙荒段爲鐵路所經時有洋兵往來加之地方寥闊蒙民錯居華洋之交涉既繁伏莽之潛滋愈甚保護彈壓在在均關緊要其巴拜荒段僻在一隅周圍約數百里當此草萊初闢旗民佃戶麕集於此未免人數不齊轉瞬荒務告竣局所必裁其地無官鎮懾竊恐匪徒乘間滋擾墾戶不能安居應請與兩蒙荒地同設地方官以圖長治久安等情據墾務總局呈請核辦前來奴才詳加覆覈委係實在情形亟應添設地方正佐各官以資分治遇有詞訟命盜交涉以及應辦事件均責成該員經理庶幾教養兼施富庶之基礎以立恩威幷用地方之隱患以消茲擬於郭爾羅斯後旗荒地設一廳治查該處有肇州古城即名曰肇州廳設撫民同知一員巡檢兼司獄一員凡鐵路交涉局所及附近鐵路荒段均歸該廳管轄並於該段鐵路迤東設分防經歷一員名爲肇東經歷杜爾伯特荒段附近東清鐵路安達車站擬即名曰安達廳設撫民通判一員巡檢兼司獄一員該兩廳即歸黑龍江分巡道管轄巴拜荒段地方雖廣人民會稀擬先設立縣治該處原有巴拜泉即名曰拜泉縣設知縣一員巡檢兼典史一員歸海倫直隸廳管轄肇州安達兩廳邊荒初闢蒙民雜處鐵路橫穿交涉尤重擬定爲衝繁難題調近邊要缺應加理事銜拜泉縣土地肥饒旗民兼墾擬定爲繁難題調邊缺之要並加理事通判銜經歷巡檢等官均加六品銜俱作爲沿邊要缺以上所設廳縣各缺遇有缺出升調兼行由外酌量具題如實無堪以升調之員即於候補並揀發委用人員內揀員題補三年俸滿保請入於即升班內升用仍在任候升經歷巡檢等缺遇有缺出於通省人員內揀選調補或於候補並揀發人員內酌量咨補其廉俸辦公役食等項銀兩均照江省奏定設治章程辦理該兩廳一縣設捕盜營勇五十名哨官一員以資巡緝所需廉俸辦公工食以及捕盜營弁勇口糧等項銀兩均請於各該處大租項下開支未升科以前仍由荒價項下動用如蒙 俞允所設各缺仍由奴才先行遴員奏明試署俟一年後果能辦理裕如再請實授派員試署之日暫分別刊給木質關防鈐記俾資鈐用仍請 飭部預爲擬撰字樣鑄造印信頒發以昭信守除分咨政務處吏部查照外所有添設地方正佐各緣由理合恭摺具陳伏乞

皇太后 皇上聖鑒訓示謹 奏奉 硃批政務處吏部知道片併發欽此

東京電報

●**伊藤統監赴韓之期** 韓國統監侯爵伊藤博文君日前已奉 旨赴任途次住大磯者幾二閱月刻已定於西二月廿一日啓程赴韓國云（按大磯爲伊藤侯別墅所在）聞侯到韓國之日其往迎之式一照陸軍禮式中總帥之資格辦理於隨從儀仗外舉行禮砲式且於邸宅派以衛兵云（西二月十六日到）

倫敦電報

●**美國豫備中國排外匪徒** 據華盛頓所傳消息云美國政府恐中國排外之氣勢日昂因之國務卿孔取業斯氏警戒陸軍卿他夫多氏預備綏急刻已簡派軍隊赴菲律賓島云然據續報雖美國政府杞憂如此在倫敦北京之英國當局者則尚未遽信有排外匪徒起於中國之虞云（西二月十六日到）

中外要聞

●抵制俄人之策 聞最秘最確消息外部堂憲會商抵制俄人之策謂邊地練兵已緩不濟急況俄人久得蒙人之心喇嘛亦與俄人交誼蒙古地方遼闊邊防大臣豈能盡知蒙俄陰私之事惟宜秘行奏請加恩賞給蒙古王公盟長台吉爵銜厚祿以牢籠其心並破俄人營謀之計再咨行理藩院尚書肅親王與年班蒙古王公議商同藩時通知內外各部各旗俄人如何謀我礦路利權如貪一時小利將來土地已非蒙人所有以此語提醒蒙人速行聯絡各部練軍期成勁旅當時亦不可與俄人忽然絕交恐練兵未成俄人乘虛擾亂反多事故云云現在堂憲已將摺底繕妥俟呈慶邸閱看再繕正摺呈遞

●廣西自辦路工 廣西京官會議本省路鑛屢有法人要求之事昨已具稟呈遞外部請外部堂憲極力拒絕外人之索現各京官已決計設法籌欵自辦云云

又聞岑雲階制軍籌欵一事請爲領袖其餘同鄉官紳按照家業肥瘠出股作欵等語

●德兵撤退後之問題 外部接德國駐京大臣照會略稱膠島撤兵以後海面不靖貴國既不允德兵自行勦捕倘租界內有不虞其中樓房船支米穀及服用等物約值三千萬之數貴國當允認賠償各語當由外部電告楊蓮帥調查膠島物值俟楊撫覆電再爲照覆德公使云云

●日皇賜授寶章于韓使 韓國答聘大使李載完王日前遵奉 韓皇之諭即帶隨從人員啓程京城進抵東京已于西上月念七日入覲 日皇於鳳凰殿與威仁親王邦彥王等均賜午餐而退翺焉越念八日 日皇特派岩倉侍從職至韓使館勳將一等旭日桐花大綬章頒贈于李王其餘隨員亦值敘勳照級不等並聞向例將寶章賜授外國官民皆由外務省轉贈今因日韓爲兄弟之國故不由外務省直由宮中贈授蓋從來未有之曠典云

●電飭賑恤難民 海參威迭次起變中國商民財產損害不可枚舉其逃往黑龍江屬各地避難者亦道路相泣無衣無食海參威中國商務委員李家鰲氏請延留愛仁輪船之故實係難民過多變故伏動欲籍以救援不意反因之獲咎聞李委員又電外部聲稱難民逃于璦琿者頗多請電程將軍救恤等語故日前外部電黑龍江將軍程德全飭其設法派員撫邺該處難民勿任失所云云

●德皇在丹拒談政事 德皇因送丹皇克里斯張帝之殯赴丹國京城有克爾塞爾男爵亦代表法國政府赴丹京乃德皇函致克男爵拒斥因政治彼此面晤之事以避嫌疑

●不准任意改籍 政府擬准論定凡提督總兵副將等武官例不准在現任地方置立產業即丁憂休致事故解退之後亦不許在彼處入籍居住或于任內置有產業巳經身故及不能回籍者該督撫詳細查實具奏請 旨定奪云云

雜報

●營口萬國演說會第二次會議之內容 本月二十二日爲營口萬國演說會開會之第二期是日風雪交作六出紛飛中西會友之具有熱心者皆衝寒冒雪而來屢滿戶外會正牧師魏雅各君會副盖平鹽厘總辦魁星階君遠來洋行魏尼司君東盛和葉亮卿君皆登台演說又會正營口廳談鐵隍君晉省託蔡辛伯君代爲演說其演說大致以本會甫經起點亟宜各助經費竭力擴充會中添設閱報研究所幷擇寬大會所以便容人諦聽當經各會友議定從下月起以後按月每逢初十二十五日兩期爲開會日期平時派會友二人逐日輪流到會隨意演說議論兩鐘之久始各散歸

●收債被捕 本埠永發園櫃夥張鳳岐直隸寧河人在埠有年向無劣行前月在新民屯一帶收債誤與鬍匪同居一寓適營官張作霖搜捕苑五餘黨疑係同夥捉送錦縣想一經鞫訊定能水落石出云

●火藥失愼 昨由西來官塲人云奉天趙次帥以本省兵隊不敷需用特文咨請北洋常備軍礮隊壹營步隊二營相輔彈壓關東匪盜乃由保定府派第三營統領張國泰管帶隴文泰王文治藉乘京漢鐵軌敝車三輛滿載礮彈子藥東出楡關華歷月之二十日至錦郡西小淩河界不識火由何來突聞轟然一聲子藥彈丸炸如爆豆幸未傷人僅將該車三輛燬壞云

●訛賭詐財 昨聞埠民傳云有無賴子王文者先充衛生局巡役後因曠職妄爲竟被斥革今正艱窘無所生計乃與一趙姓者向各處訛賭詐財凡客棧煙館等處聞有局戲者趙先入內既而王悄入內攫其賭具衆皆驚駭趙即向前攔阻向衆爲干介紹稱王係衛署師爺云云謝手票數元而去設有先曾戲賭後竟絕無者王乃進向該主人訛詐前曾設賭云云經趙入關說或賄三元兩元乃去云

●慈善寶貨店及演藝會之開期 本月二十七日日本愛國婦人會委員擬在本埠（阿次鮮補里好斯監督衙門之南）開慈善寶貨店幷慈善演藝會其章程如左

一慈善寶貨店特運來日本極優美極嶄新之美術品幷婦人用粧飾一切及陶器漆器等類

一演藝會以本婦人會委員部會員幷補助本會事業之各有志家演藝數番

一慈善寶貨店自午後二鐘起演藝會自午後六鐘開始

一觀會證票每張價洋三元在領事館內及牛莊日本人會內發賣

一觀會人員限有定數如願實票者須速來購取格外便宜

愛國婦人會牛莊委員部告白

員會合を催し慈善市の事務に就き色々相談する所ありたり、本日は更に午後二時よりアッセン

日迄其儘に打捨て置きたる所一昨日係憲兵より告發せられ違警罪の處分を受けたりと云ふ

昨日の氣溫　最高溫度十六度　最低溫度零下八度　昨年との比　高十一度一　低十八度六

NEWCHWANG, SUNDAY, FEB. 18, 1906.

THE HAND OF DIVINE PROVIDENCE (PART XXXII).

Enough has been said in the preceding issues upon how Japan has saved, by the late war and through the grace of Heaven, not only herself and Korea, but China from the imminent partition, and, what would have been the most awful and necessary consequences, the whole Eastern Hemisphere from Cossack despotism. Russia has formally pledged herself at New Portsmouth to clear out of Manchuria of her own accord. By calling Japan's endeavour to drive Russia out of Manchuria "*futile*," the Seoul editor must know for himself that Russia will yet again break her solemn promise on her evacuation, in disregard of China's suzerainty, to a menace to future peace in the Far East, and to the sore disappointment, not to say wrathful despair, of the saner world who has hoped for a change for the better in her insane traditional policy of bad faith, after she broke her word twice on the very same subject, thereby bringing upon herself the disasters of the late War. Were such to be the case—and the impatient world will soon know, not what Russia will agree or disagree to do, but how far she does make her word good—Russia alone would have to answer for the consequences. Japan might regret that she once more trusted, if she ever did at all, a Power unworthy of trust. Many fools and lunatics are hopelessly incurable. Then, limitations curve nations as much as individuals. Common sense dictates order in pursuance of a work. Sleep comes in as a necessity; so does rest. One who would try to run on foot from Vladivostock to St. Petersburg, at a stretch and without rest, might be called by convention an incurable idiot. A most self-respecting man would keep out of a madmen's race under those conditions, and keep his good reputation intact. The laugh would be on the madman who laughs at '*futility*' in such an endeavor.

Again, Japan may know very little, as the Seoul editor believes with good reason, what her exact position in Korea will be 5 years hence. Of a truth, she less cares to know it, seeing that, strive as she may, she never can. To him blessed with such a scope of the imagination, every spectral foreboding destined to come true in Korea during the coming 5 years, all to Japan's grief, may be clearly perceptible. But, "sufficient is the day and the evil thereof." Japan gives no thought for the morrow, much less for 5 long years hence. She has the present to engross her attention in. She ought to know by this time exactly where she stands in the Peninsula, and seems to be showing every day that she really does, for all the later contentions to the contrary by the same editor. What she has netted in Manchuria, Korea, and the southern half of Saghalien may not be quite worth the 2,000,000,000 yen. However, not a yen of the precious gold has been laid out for a purely commercial venture. Considering what a stupendous stake she has been able to *save* by the outlay, the idea of sordid gain left out of thought, she has beyond question made by far a better and luckier bargain for the money than could be ever dreamed of.

The front side of the double character in which the Seoul genius obviously aim-at investing Japan by his masterly strokes of the pen, is to be elaborately made up as the same attenuated imbecile that made herself an object of hearty disgust to the Koreans and the Chinese, by giving up Liaotung Peninsula 11 years ago. The electrical effect of producing just such an impression in the hearts of those Orientals once served so excellently the blackest ends of the 'Interference' clique that the temptation for a second trial must have been too strong to be resisted for the antagonistic foreign agency whose mouthpiece the Seoul contemporary is believed to be.

We learn that Mr. J. Geddes, Boat-Officer of Newchwang Customs has been transferred to Shanghai. He has once been honoured with a gold medal of merit by the Japanese Government, in recognition of his prompt rescue of the passengers and crew on board an Osaka Shosen Kaisha steamer about 4 years ago. The outgoing steamer in question struck upon a sunken rock near the mouth of the harbour with such vehemence that she went down before those below could find what had happened. The loud crash and cries of distress drew Mr. Geddes's attention, who instantly put off for the rescue, saving all except the native pilot whose fatal error is said to have caused the disaster. We wish Mr. Geddes every success.

營口旅館料理店案內（いろは順）

旅館 第一營口ホテル 元神廟街九十六號
旅館 第二營口ホテル 河岸通り
料理 第三樓 元神廟街三十二號 店主 粕屋忠兵衛
料理 入船亭 永世街百八十三號 谷初次郎
旅館 日營ホテル 河岸通り 店主 井上源吉
料理 東京館 永世街八十六號 店主 村上東四郎
旅館 東茂旅館 西北街百七十三號 正金銀行西三軒
料理 沖の島 永世街百六十五號 店主 中川清三郎
料理 吉野亭 永世街八十六號 店主 坪田正好
旅館 竹村館 永世街二十二號（電話五一） 店主 廣田久二
旅館 大和館 永世街十一號 店主 前田九一郎
料理 滿洲樓 南永世街第十號 店主 直塚勝二
料理 萬梅 豊濟門街第百○四號 店主 田島濟助
御料理 まんなをし 永世街字二本町二百五十九号 元吉田屋跡 店主 和田常松
料理 醉花園 旅館 澁谷旅館 永世街百二十七號 店主 澁田留吉
旅館 金城ホテル 永世街百六十六號
料理 第二金城ホテル 永世街百六十六號 店主 齋藤富次郎
旅館 東雲旅館 永世街七號 店主 谷口今朝太郎
料理 喜樂亭 營口元神廟街

營口軍政署御用旅館 東雲 主任 谷口今朝太郎

さるそば 第一更科 營口元神廟街
さるそば 第二更科 永世街鶴の湯角

御料理 柳亭 叮嚀専一 豊濟門街二三 店主 玉岡益人

御料理並ニ溫泉 一力 營口永世街 店主 堀万助

和洋料理 本店 松月亭 營口元神廟街一四三号

和洋料理 御旅館 支店 滿洲ホテル 遼陽西街西門一一七号

遼陽旅館料理屋案內

旅館料理業 日營ホテル支店 主任 井上源吉
御料理會席 菊水館 主任 朝枝國捨
旅館西洋料理 遼陽館 主任 永瀬宇吉
旅館料理業 公陽館 主任 宮川秀基
御料理會席 末廣屋 主任 山根初之丞
御料理 色々應御注文 凱旋亭 主任 古谷庄太郎
旅館御料理 遼塔ホテル 主任 木村常吉
遼陽兵站司令部指定ホテル 遼陽俱樂部 營口東雲館支店 主任 谷口今朝太郎
會席 玉家 主任 西野治三郎
御料理會席 來々亭 主任 石田清

爲替相場（二月十七日）
日本向 一百圓（軍票百圓に付）
上海向 七十一兩二匁五分（同）
天津向 一百○二圓二十五錢（百弗に付）
芝罘向 天津向ト仝

日本品最近物價表 加藤洋行調査
酒類
一 菊正宗 三斗九升入 銀廿一圓
一 獻櫻正宗 四斗四升入 仝十七圓五十錢
一 峯香露葡萄酒 四打入 仝二十二圓

煙草 代々木公司調査
一 スター 五十盒入一箱 銀七十八圓三十錢
一 チエリー 三十盒入仝 仝四十四圓
一 リリー 仝 仝四十一圓
一 サンライフ 仝 仝四十一圓

撫順炭大販賣
多少に不拘御用命被仰付度願上候
金城館販賣部

特別室落成
營口金城ホテル旅館部

藝妓仲居 新來
金城館料理部

奉天小西門外
會席御料理 高等御旅館
金城館

旅館 富喜樓
室內は極濟潔防寒之設備あり
鐵嶺驛へ滊車到着毎に日本人の案內者出張致し居候
鐵嶺城東門外南へ一丁余 南大街
樓主敬白

御旅館 豐陽館 上海（電話一〇六番）
日本郵船會社荷客取扱
歐米滊船乘船取扱
館主 米田藤吉

西海洋服店
歐米各國最新流行形
永世街一四一（森病院三軒目）（電話百二十七號）

御料理 滿月 平野町一八二（電話一六一）

御料理 滿月支店 平野町（元都樓跡）
今般內地より撰り抜きの別嬪數名呼寄候に付不相變御引立の程希上樓候
店主 青木勝惠

御旅館 天津 芙蓉館
駐屯軍御用 並西洋料理
（電話四十一番）

高等旅館 彌生館
營口永世街
館主 宮下只七郎（電四二）

和洋會席御料理
一弊店の特色は座敷廣くして大宴會に適當なり宴會の時は舞台に造附且又會費等は特に割引大勉强仕候
二奉天支店も本店同樣に大勉强仕候間御光來被成下度候
營口永世街二本町 日本館本店（電話百三十番）
奉天小西門外大十字街北入橋町 日本館支店（電話十九番）
各位樣

讓り渡し
弊樓現在の家屋及建具付の儘讓渡し度候に付御望みの御方は至急御來談被成下度候
二月四日 平野町 春帆樓

諸鐵工製作
鑛山船舶機械鐵工
輕便鐵道附屬鐵工
土木建築用鐵材料
其外鑄物諸般
（營口ブリッヂ 門前光會 街東）
喜川鐵工場

諸鐵
一 六分板（耳ヅリ）仝 一圓九十錢
一 仝（並）仝 一圓七十五錢
一 八分板 仝 二圓五十錢
一 二間正八分板割 仝 七圓五十錢
一 仝 二間正一寸仝 仝 九圓五十錢

SK
軍票騰貴致候に付發行正札價格より五歩引を以て御用達可申候
銘酒菊正宗新着!!
尚最上日本白米及マッチ新荷着仕候
雜貨商 加藤洋行（營口電話百十八）
本店 天津日租界 大阪
支店 營口 北京
出張所 遼陽

清國營口二本町二五五號
發賣 料木 標子 木板
鹽川商會
主任 鹽川峰吉（電話一三六番）
遼陽小西門內 鹽川商會 建築用材
外に
電柱用材杉丸太長（自二十尺至三十尺）八千本
北海道產松大角（自廿五尺至三十尺）一万立方尺餘
右之品多少に不拘特別安價を以て差上候條御入用の御方は御來臨被成下度候也

○上等石炭 一噸に付 銀十六圓
○上等日本米 一石に付 銀二十圓
○板材木 ○木炭
○亞鉛板 ○洋釘
○干擄魚 ○石灰
喜久洋行
永世街八十號（電話百五十二番）
御小賣致候間御用の御方は御通知次第直に持參可仕候也

大連 東洋ホテル
大連鐵道停車場附近民政署前兒玉町

MANCHURIA DAILY REPORT.
Subscription 4 cts. a copy
80 cts. per month.
$2.30 per 3 months.

本紙定價
一枚ニ付 銀四仙
一ヶ月前金 銀八十仙
半ヶ年前金 四弗八十仙
一ヶ年前金 銀九弗六十仙
廣告 二十一字詰一行一回 銀二十仙